

平成18年(2006年)10月20日
山口県病虫害防除所

- 1 病虫害名 トルコギキョウ葉巻病
(病原ウイルス：トマト黄化葉巻ウイルス Tomato yellow leaf curl virus : TYLCV)
- 2 作物名 トルコギキョウ
- 3 特殊報の内容 新発生 (TYLCVによる被害作物の拡大)

4 発生経過

- (1) 発生確認月日：平成18年10月10日
- (2) 発生地域：下関市(旧市)
- (3) 発生状況：

下関市の施設栽培夏秋切りトルコギキョウ(品種：セレモニーオレンジ)で生長点付近が黄化、萎縮、巻葉し、葉脈が隆起する症状が発生した。

病虫害防除所において遺伝子診断(PCR法)し、TYLCVを確認したことから、本県では未発生のトルコギキョウ葉巻病と診断した。

本病は1ハウス、数株のみで発生しており、発生したハウスでは本病の媒介虫であるタバココナジラミ類(以下、媒介虫)の発生が認められた。

5 本病の特徴

(1) 病徴

発病部位より上は節間が短縮し、萎縮する。葉は小型化し、葉脈が隆起し、葉表を内側にして巻葉する(図1、2)。



タバココナジラミ

図1 生長点付近の黄化・萎縮・巻葉症状
図2 葉脈の隆起
図3 媒介虫の成虫(左)と蛹(右)

(2) 伝染経路

ア タバココナジラミ類による虫媒伝染で、永続伝搬する。オンシツコナジラミやその他の虫では伝搬しない。

イ 種子伝染、汁液伝染、土壌伝染はしない。

(3) 感染植物

- ア 病徴あり：トマト、ミニトマト、トルコギキョウ、インゲンマメ、ペチュニア等
- イ 病徴なし：ピーマン、ジャガイモ等や、ノゲシ等の雑草。（雑草から作物へのウイルス伝染は不明である。）

(4) 媒介虫の特徴

- ア 体長約1mm（図3）で、施設栽培を中心として、多くの野菜や花の害虫である。
- イ 野外では越冬できず、主にハウス内で越冬すると考えられる。
- ウ 花、野菜等の作物だけでなく、雑草（ノゲシ、セイタカアワダチソウ等のキク科雑草やクズなど）でも増殖する。

(5) 他県での発生状況

本病は1999年に長崎県で初めて確認された。その後西日本を中心に拡大し、佐賀県、宮崎県、熊本県、福岡県、愛知県、高知県、静岡県の8県で発生が確認されている。

6 発生地域における今後の対策

今後、被害の拡大を防止するためには、媒介虫が野外で活動しない冬季の防除対策を徹底することが重要である。

(1) 物理的および耕種的防除

- ア 本病の病徴を示す株は直ちに抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。
- イ ハウスの開口部に防虫ネット(0.4mm目以下)を設置し、光反射フィルム、黄色粘着板等を組み合わせて利用する。
- ウ ほ場内および周辺の除草を徹底する。
- エ 収穫終了後は本病発生の有無にかかわらず、媒介虫が拡散しないようハウス内で死滅させる。その後、植物体残渣を土中に埋めるなど適切に処分する。

(2) 薬剤防除

- ア 媒介虫の防除を実施し、ハウス内での感染防止および媒介虫のハウス外への拡散防止を図る。（対象：媒介虫が確認できないハウスも含め、越冬の可能性のある全てのハウス）。
- イ 定植時に粒剤を施用し、媒介虫の発生を抑制する。
- ウ 防除薬剤は、10月2日付け「技術資料第9号」を参考にして選定する。

(3) 他作物へのTYLCV感染の警戒

トルコギキョウの他、トマト、ミニトマト、インゲンマメ、ペチュニア等を作付けしている場合は、生長点付近の黄化、萎縮、巻葉など本病の病徴が出ていないかを確認する。

7 その他

疑わしい症状が確認された場合は、最寄りの農林事務所または病害虫防除所に連絡する。